

平成28年度 研究主題

もっと知りたくなる授業の創造

～課題解決型学習を中心に～

子供たちが「もっと知りたい」「もっとやりたい」「もっと伝えたい」と思える授業、つまり主体的な取り組みにつながるような授業を創り上げるためにはどうしたらよいのかを考え、今年度も主に研究授業を通して、校内研究を進めてまいりました。低学年(1・2年)は算数科、中学年(3・4年)と高学年(5・6年)は社会科、専科(少人数算数・理科・音楽・図工)はそれぞれの教科で研究授業を行います。全教員が研究授業を行い、お互いに授業を見合い、考えた手だてが研究主題に迫るのに有効であったかどうかを協議します。全22回の研究授業のうちの6回は、全員で1つの授業を参観して研究協議会をもち、専門性の高い講師の先生からのご指導を受け、一人一人の授業力をさらに上げることがをめざしています。

昨年度までの研究の成果と課題を受け、今年度は特に3つの手だてを意識して授業に臨んでいます。

「もっと知りたくなる授業」の実現に向けて

〈手だて①〉「もっと知りたい」と思えるような学習課題の工夫

〈手だて②〉考えを伝え合い、学び合えるような、ペアやグループでの学習の工夫

〈手だて③〉「わかる授業」にしていくための工夫

(資料の精選、学習シートの工夫、ICT機器の活用など)

子供たちの学ぶ力を上げていくための校内研究の取り組みを、ぜひご覧ください。今回は10月までに行われた研究授業をご紹介します。

音楽

3年1組
6月2日(木)

「リコーダーとなかよしになろう」

長野 恵子 教諭

5月19日に初めてリコーダーを手にして音を出した3年生の授業。まずメトロノームのリズムにのって名前を呼び合い、7月の集会の歌を歌ったら、いよいよリコーダーの練習です。リコーダーを吹く時の姿勢、持ち方(左右の手を逆に持たないよう)、タンギングなどの基本を最初にしっかり身に付けないとあとあと苦勞します。そのために、①右手で「聖火ランナー」とリコーダーを高く掲げる。②体の前に下ろして左手をシの指使いにする。③聖火ランナーの右手を正しい位置にスライドする。④頭部管を口に持って行く。と全員で進めます。

楽譜にカタカナを付けなくて読めるようにするのも3年生の学習内容です。1小節分のいろいろなリズムを書いたフラッシュカードを出して、タンギングに気をつけて吹いたり、五線譜の音を簡単に読めるよう「オミソシル」というヒントで早読み競争をしたりします。こうして無理なく楽しく身に付けられるよう、いろいろな手だてで、手を変え品を変え、授業を進めています(手だて③)。

(手だて③)
「聖火ランナー」に例えた
わかりやすい基本指導



(手だて③)
リズムカードや読譜のヒントワードの活用

当たり前のように毎日大量に使っている水が、「どのようにして手元まで届いているのか」という素朴な疑問から学習を始めました。学校の蛇口の数や、一週間分の家庭で使用した水量を調べました。その結果について、使う量をペットボトルに置きかえて考えさせることで、自分たちが大量の水を使っていることについて実感を持ち、学習課題への関心・意欲が高まりました(手だて①)。また、資料として外国の水事情についてわかる写真を活用し、日本のように蛇口をひねれば、安全でおいしい水が飲めることは世界中でもまれであることを知り、学習への興味を高めることができました(手だて③)。



(手だて①) ペットボトルに置き換えて考える



(手だて②) 一人一人の考えを付箋に書き、学習ボードに貼りながら分類し、統合化をする



具体物や写真を活用し、児童が実感できるような指導を工夫しました。

学習の導入で、毎日の生活で、どのようなときに、どのくらい水を使っているのかを調べました。ペットボトルに換算して、一人当たり1日に2Lペットボトル約110本分の水を使っているという結果に驚くと同時に、水は生活に欠かせないことを改めて感じとりました。その一方で、写真資料や日本に旅行に来た外国人の話などから、世界の水事情を知り、きれいで安全な飲料水が確保できるのは決して当たり前ではないことに気がきました。

驚きのある事実と出合わせることで、「なぜだろう」「調べてみたい」という気持ちをもつことができました。
(手だて①③)



(手だて③) 身近な具体物や経験談、写真の活用



(手だて②) 自分で考えたことをもとに、友達と話し合いながら広げ深める



資料を使って世界の水事情と比較させたり、生活の中の水について調べて学習シートにまとめさせたりすることで、日本の飲料水が安全であることを知り、その水を毎日大量に使っているという事実を、実感しました(手だて③)。そして、水道水の質と量に注目し、「どうして日本の水はきれいなのか」や「なぜ水はなくならないのか」、「きれいにする工場があるのか」など様々な疑問を一人一人がもち、出し合いながら「大量の水はどこからどのように送られてくるのか。」という学習課題をみんなでつくり、追究していきました。こうすることで、一人一人が、自分の身近な問題と捉えて学習に取り組むことができ、学びを深めることができました(手だて①)。

(講師：町田市立大蔵小学校長 石井 正広 先生)



(手だて②) グループ活動の工夫：短冊を使って一人一人の疑問をグループで分類し、統合化する



(手だて②) 学習課題づくりの工夫：グループでまとめた疑問を出し合い学習課題をつくる



水産業に関する食生活や知識、経験について事前にアンケートをとり、子供たちがその結果を共有し自分たちの生活と学習をつながけながら興味をもって取り組めるように指導を進めました(手だて①)。最初の授業で、事前アンケートをもとに知っていることを発表し合い、食生活の中でほとんどの児童が日常的に魚料理に親しんでいることがわかりました。しかし、教科書や資料のグラフや表を読み取りながら調べていくと、日本の漁獲量が減少していることや、水産資源が危機的な状況にあることなど、様々な問題があることに気づき、関心が高まり、意欲的に学習を進めていくことができました(手だて②)。



(手だて③) 見やすいノート作り、ノート指導



(手だて③) 資料の読み取り指導、ICTを活用した資料の提示



私たちの食生活を支える魚介類は、「どのように食卓まで届けられているのだろうか」という疑問のもと学習を進め、魚の獲り方や市場、輸送の工夫について調べました。

毎時間、見やすいノート作りの指導を重ね、これからの水産業の在り方を考える学習では、働く人の高齢化や漁獲量の減少という課題に対して、今までのノートを見返して、学習したことを根拠としながら自分なりの考えをもつことができました(手だて③)。

普段、「当たり前」と思っていることを深く学習することで、驚きや発見、人々の苦勞などに目を向けることができました。



(手だて③) 見やすいノート作り、ノート指導



(手だて③) ICTを活用した資料の提示と板書の工夫



事前アンケートから、子供たちにとって、魚を食べることは当たり前になっていますが、水産業を身近に感じることは少ないようでした。今、起こっている水産業の問題を具体的に捉え、調べていくことで日本の水産業の危機について自分の生活と結びつけながら学びました。その問題を解決していくにはどうすればよいのかを今までのノートや掲示物を見返して自分で考え、相手に伝えました(手だて②)。そして、水産業に従事する人々が様々な工夫・努力をして問題を解決しようとしていることを資料やビデオで知りました(手だて③)。

(講師：町田市立大蔵小学校長 石井 正広 先生)



(手だて③) 今までの資料やノートの見返し



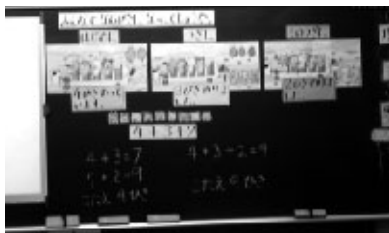
(手だて③) ICTによるビデオ資料の活用



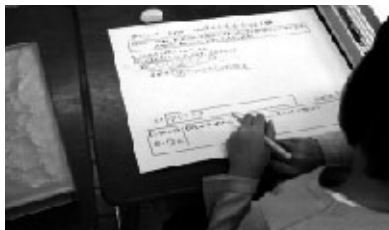
(手だて③) 考えを深めるための補助資料の準備

算数 1年3組 10月11日(火)

「3つのかずのたしざん、ひきざん」 竹内 不二子 教諭



(手だて①) 絵を使ったわかりやすい学習課題



(手だて③) 学習シートの活用

猫がバスに乗っている3枚の絵を見てお話をしながら自分達で問題を作ったので、問題解決への意欲が高まりました(手だて①)。4+3+2のような3つの数のたし算の計算の仕方をブロックを使ったり学習シートに○を書いて図にしたりして考えていました。その自分の考え方を隣の席の友達に伝え(手だて②)、クラス全体でもスクリーンに映して発表しました(手だて③)。「友達の発表を聞いたら、やり方が良く分かって、嬉しかったです。」「いろいろなやり方があって楽しかったです。」と学習感想を書いていました。自分の力で考え、友達に考えを伝え合うことが学習への意欲の高まりにつながっていきました。



(手だて③) ICTを活用したいろいろな考え方の交流

算数 1年1組 10月13日(木)

「3つのかずのたしざん、ひきざん」 高島 ハツミ 教諭

9-2-3のように、猫がバスから降りていく3つの数のひき算の問題の解き方を考えました。問題に合わせてブロックを並べて動かしたり、ブロックの動かし方に合わせ、○図をかいたりして考えました。自分の考えをペアで伝え合い(手だて②)、スクリーンに映して全体に伝えていく(手だて③)と、動かし方が同じなのに○図や式が違ったことに気が付きました。また、ひき算でも、たし算と同じように3つの数を1つの式に表せることと、左から計算すると答えが出ることを確認しました。それぞれの考えを伝え合うことは、問題の考え方を広げ、深めることにつながり、学習への意欲が高まってきました。

(手だて①)
学習課題の提示の工夫：
絵を使って分かりやすく



(手だて②) ペアでの伝え合い



(手だて③) ICTを活用したいろいろな考え方の交流

算数 1年2組 10月18日(火)

「3つのかずのたしざん、ひきざん」 田辺 智則 教諭



(手だて③) ICTの活用と板書を工夫した授業づくり(まとめ時はスクリーンを左側に収納して黒板を広く活用)



(手だて③) 学習シートに自分の考えをまとめる

猫がバスに乗っている絵を見て、問題作りを行い、3つの数のたし算の計算の仕方を考えました。考える方法として、これまでの学習で使ってきたブロックや○図を使い、自分なりの考え方を学習シートに表現しました(手だて③)。そして、自分の考え方を班の友達に伝える活動を行いました。ペアを変え、何度か話させることで説明も徐々に上手になり、全体に発表するための自信になりました(手だて②)。自分の力で考え、友達と伝え合うことで、学習への意欲や自信をもって意見を言うことにつながっていくことができました。学習感想では、「友達の発表を聞いたら、自分と違うやり方が分かった。」「数が増えても、一つの式にできることが分かった。」等、学習シートに書かれていました。(講師：高井戸第三小学校教諭 吉田 映子 先生)



(手だて②) ペアをかえながら自分の考えを伝え合う